



麻疹・風疹ワクチン

麻疹・風疹混合（MR）ワクチン、麻疹ワクチン、風疹ワクチン

B-07

どんな病気ですか？

麻疹

主な初期症状は発熱、咳、鼻水、眼が赤くなる、目やになどです。一旦下がったようにみえた熱が再び39℃以上の高熱となりますが、この頃に口の中を見ると白いぶつぶつ（コプリック斑）が見えます。その後、皮膚に発疹（赤いぶつぶつ）が出現し、1～2日のうちに全身に広がります。合併症がなければ7～10日くらいで治ります。

日本は2015年3月に麻疹が国内から排除されたと認定されました。排除認定後は、国内の患者数は少なくなっていますが、麻疹の免疫を持たないまま麻疹流行国に行くと感染し、帰国後発症する人が報告されています。

麻疹の合併症

肺炎や中耳炎、クルーズ、下痢などを合併することが多く、1,000人に1人程度の割合で脳炎を合併することがあります。また麻疹が治ってから数年～10年程度たってから発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）は極めて重篤な病気です。肺炎と脳炎は麻疹の2大死因と言われており、医療の進んだ先進国であっても1,000人に1人は死亡する極めて重い感染症です。

風疹

発熱、発疹（麻疹より淡い色の赤いぶつぶつ）、首の周りや耳の後ろのリンパ節のはれが主な3つの症状です。合併症としては数千人に一人の頻度で、脳炎や血小板減少性紫斑病を起こします。感染しても症状が出ない不顕性感染が約15～30%あります。

先天性風疹症候群

妊娠20週頃まで（特に妊娠初期）の女性が風疹ウイルスに感染すると胎児にも感染して、出生した赤ちゃんが先天性風疹症候群（CRS）という重い病気を発症することがあります。先天性風疹症候群は、生まれつきの心臓病、白内障、難聴、発育発達の遅れなどが主な症状です。日本では2012～2013年に成人男性を中心とした大規模な風疹の流行が発生し、妊娠した女性に感染が広がり、45人の赤ちゃんが先天性風疹症候群と診断されました。二度と風疹の流行を起こさないようにするためには、女性は妊娠前に2回のワクチン接種を受けることが重要です。またこれまでにワクチンを受けたことがない成人男性（特に30～50代）の男性がワクチンを受けることも大切です。

ワクチンをいつ、何回接種しますか？

麻疹・風疹混合（MR）ワクチンの2回接種が有効です。

1回目



1歳になったら早めに

2回目



小学校入学前の1年間

1歳になったらなるべく早めに1回目の接種を受けます。必ず2歳になるまでに1回目を完了させます。2回目は小学校入学前の1年間（6歳になる年度：4月1日～3月31日）に受けます。

定期接種対象年齢に達していない生後6～11か月の赤ちゃんで麻疹が流行している国に渡航する場合など、0歳で麻疹ワクチンを受けることがあります。0歳での接種は免疫の付き方が十分ではないため、接種回数には含めません。この場合、必ず1歳以上で2回の予防接種を受けましょう。

※2024年度に麻疹・風疹混合（MR）ワクチンが足りない時期があり、接種できなかったお子さんがいました（1回目：2022年4月2日～2023年4月1日生まれ、2回目：2018年4月2日～2019年4月1日生まれ）。その方々には、2025年4月1日から2027年3月31日までの2年間、麻疹・風疹混合（MR）ワクチンを定期接種のワクチンとして、費用の負担なく受けることができます。

ワクチンの効果

1回接種で95%以上の方が免疫を獲得します。2回接種で99%以上の方が免疫を獲得します。極めて稀に接種後に麻疹や風疹にかかってしまうことがあります。未接種でかかった場合に比べると症状は軽く、周りの人への感染力も弱いです。



🐼 ワクチンの副反応

麻疹・風疹混合 (MR) ワクチンを接種した5～10日後に、発熱を認めることが約2割の人にみられます。



時に38℃以上の高熱となり、稀に熱性けいれんを起こすことがあります。発熱と同時期に数%の頻度で発疹が出ることがあります。いずれも2～3日で治りますが、心配な場合はかかりつけ医に相談しましょう。接種

した部位が赤くなったり、はれることが時に見られますが、数日で治ります。また、ワクチンに含まれる成分で蕁麻疹 (じんましん) や発疹など、アレルギー反応を認める場合があります。その中でも0.1%未満と極めて稀な頻度ですが、ショック、アナフィラキシー (重いアレルギー反応)、血小板減少性紫斑病を認める場合があります。また、ワクチンとの因果関係は不明ですが、極めて稀に急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)、脳炎・脳症を起こしたという報告があります。

🐼 どのように感染しますか？

麻 疹

麻疹は麻疹ウイルスを吸い込むことによって感染します。麻疹は空気感染、飛沫感染、接触感染で感染します。空気感染とは、空気中を漂う病原体を吸い込むことで感染します。体育館やコンサート会場など、どんなに広い部屋であっても、患者さんと同じ場所にいるだけで感染してしまいます。飛沫感染とは、患者さんの咳やくしゃみ、会話の時に飛び散る飛沫 (しぶきのこと) を吸い込んで感染するものです。飛沫が飛び範囲は、1～2mです。麻疹の潜伏期間は7～18日です。

麻疹は発病する前日から解熱後3日を経過するまでは周りの人に感染させる可能性があります。



空気感染

空気に漂っている病原体を吸い込んで感染

飛沫感染

咳やくしゃみで飛び散った病原体を吸い込んで感染



接触感染

皮膚やおもちゃなどに付いた病原体に触れて吸い込むことで感染

風 疹

風疹は風疹ウイルスを吸い込むことによって感染します。風疹は飛沫感染で感染します。風疹の潜伏期間は約14～23日です。

風疹は、発疹が出現する前1週間～後1週間は周りの人に感染させる可能性があります。



飛沫感染

咳やくしゃみで飛び散った病原体を吸い込んで感染

♥ ワクチンが接種できない人は誰ですか？



接種を受けることができない、 いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分によってアナフィラキシー (重いアレルギー反応) を起こしたことがある場合
- 免疫機能に異常があったり、免疫機能を抑える治療を受けている場合 (免疫抑制剤など)
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合

* 輸血またはガンマグロブリン製剤の投与を受けた人は、接種しても免疫が十分に獲得できないため、通常3か月以上の間隔をあけてから受けます。

* 川崎病や血小板減少性紫斑病などの治療でガンマグロブリン大量療法 (200mg/kg以上) を受けた場合は、6か月以上の間隔をあけます。

* 女性は妊娠中の接種はできませんが、接種後も2か月間は妊娠を避ける必要があります。



接種を受けるにあたって注意が必要な人 接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分に対してアレルギー反応を起こすおそれのある人

